

【調査の概要】
 平成22年7月31日時点調査(郵送法)
 調査対象 県内1,000社
 回答企業 407社(回答率 40.7%)

～ 全体として足踏み傾向 ～

【全産業DI値】(表1・表2)

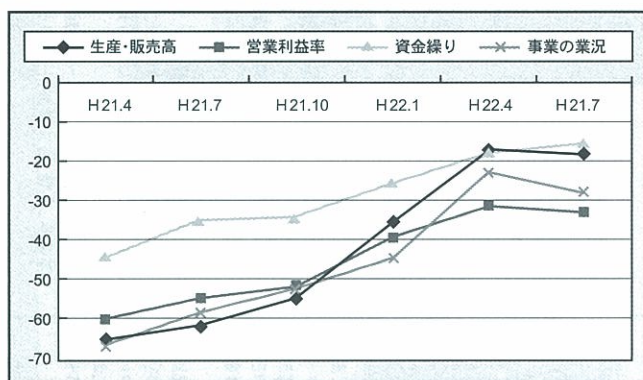
山形県全体のDI値(※)の前年同月比推移をみると、前回調査(H22.4)まで回復基調にあったが、今回調査ではやや弱含みの結果となっている。

生産・販売高(H22.4調査▲17.1→今回調査▲17.8)、営業利益率(▲31.4→▲32.5)、資金繰り(▲17.9→▲15.3)、事業業況(▲22.8→▲27.6)と、資金繰りを除いた項目で足踏み傾向を示している。

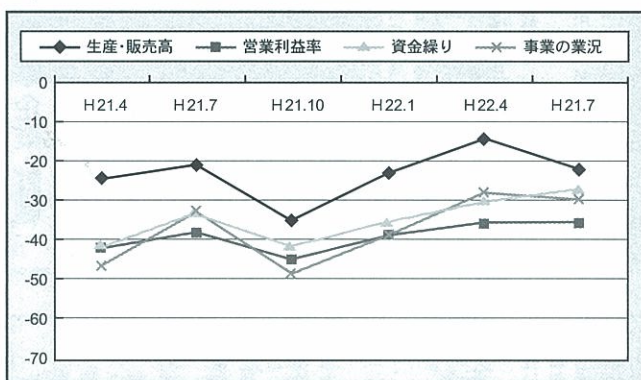
一方、3ヶ月先見通しDI値(表2)では、全産業前年同月比と同様に前回調査からみると、厳しい見方が増えた。(H22.4調査生産・販売高▲14.7→今回調査▲21.9)、(営業利益率▲35.6→▲35.9)、(資金繰り▲30.7→▲27.2)、(事業の業況▲28.0→▲29.8)

今回調査において、「前年同月比」・「3ヶ月先見通し」の両項目で、前回までの持ち直し基調が足踏み傾向に転じたことから、現在の円高・株安基調等、景気の先行き懸念を示す動きが顕在化していることへの不安が強まりつつあることが窺われる。

【表1 - 県計前年同月比DI値の推移】



【表2 - 3ヶ月先見通しDI値の推移】



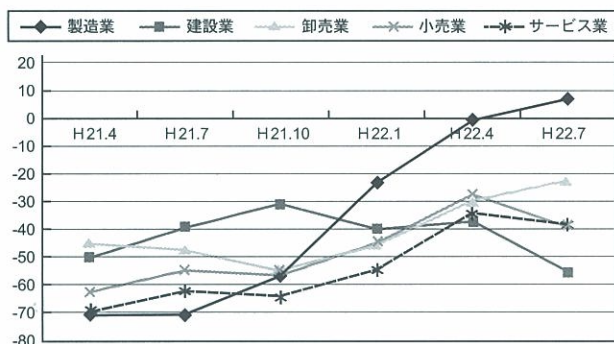
【産業別DI値】(表3・表4)

生産・販売高の前年同月比DI値を業種別の推移でみると、今回調査では製造業(H22.4調査▲1.0→今回調査7.6)が平成18年7月調査以来、4年ぶりのプラスポイントとなり、ここ1年余りの回復基調を維持している。また、卸売業も堅調な動きを示している一方、他の産業では下落傾向が見受けられ、特に建設業では18.2ポイントの大幅な下落傾向が見られる。(建設業▲37.5→▲55.7)、(卸売業▲30.0→▲22.2)、(小売業▲27.7→▲38.3)、(サービス業▲34.5→▲38.9)

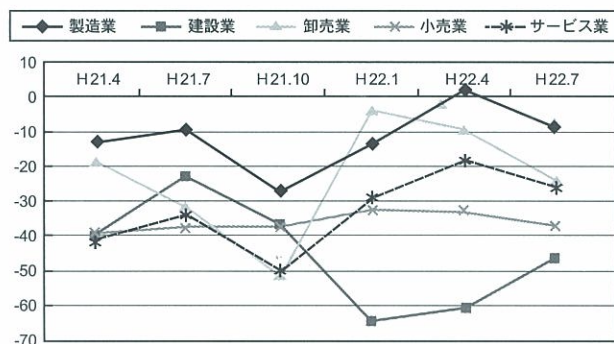
3ヶ月先見通しDI値については、建設業を除き全般的に先行き懸念を示している。建設業は前年同月比では厳しい見方をしている企業が多い結果となったが、先行き見通しについては期待値を含めての上昇傾向と思われる。

一方、製造業は前年同月比では堅調な持ち直し傾向を示しているが、先行き見通しでは前回調査から約11ポイント下落しており、厳しい見方をしている企業が多い。(製造業2.6→▲8.2)、(卸売業▲7.5→▲24.5)、(小売業▲32.4→▲36.3)、(サービス業▲18.5→▲24.5)、(建設業▲60.4→▲46.2)

【表3 - 業種別生産・販売高前年比DI値の推移】



【表4 - 業種別生産・販売高3ヶ月先見通しDI値の推移】



(※1) DI値:「増加」とした企業の割合から「減少」とした割合を差し引いた指数